

<学部消息>

2月理学部会合日誌

2月2日(月)	主任会議	1.30 ~ 3.00
9日(月)	理系委員会	2.00 ~ 4.30
10日(火)	教務委員会	1.30 ~ 4.00
10日(火)	将来計画委員会	3.00 ~ 5.00
16日(月)	理職定例交渉	12.30 ~ 1.30
18日(水)	人事委員会	11.00 ~ 11.40
"	教授会	1.30 ~ 4.40
25日(水)	主任会議	11.00 ~ 2.00

教授会メモ

2月18日(水)定例教授会

理学部4号館 1320

1. 前回議事録の承認
2. 人事移動等報告
3. 評議員改選
下郡山教授(植物), 西島教授(物理)が選出された。
4. 人事委員半数改選
海野教授(天文), 野田教授(生化)が選出された。
5. 会計委員半数改選
浅田教授(物理), 飯島教授(地質), 大木教授(化学)が選出された。
6. 人事委員会報告(末元)
7. 教務委員会報告(鈴木)
8. 将来計画委員会報告(黒田)

人 事 異 動

[助手]

教室	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
臨海実験所	助手	小林浩士	51. 4. 1	千葉大学助教授昇任	教養部
地 理		久保幸夫	51. 3. 1	助手に採用	

[講師以上]

教室	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
教 学	助教授	小松彦三郎	51. 2. 1	教育職(一)1等級(東京大学教授理学部)に昇任させる	

2 月 海 外 渡 航 者

所 属	官 職	氏 名	渡 航 先 国	渡 航 期 間	渡 航 目 的
物 理	教 授	小 柴 昌 俊	ドイ ツ 連 邦 共 和 国	2.23~3. 5	陰陽電子衝突装置による物理学に関するシンポジウム出席
化 学	教 授	朽 津 耕 三	ア メ リ カ 合 衆 国	2.24~3.15	「気相分子構造」に関するシンポジウム出席及び研究連絡
物 理	教 授	藤 井 忠 男	イ タ リ ア	2.26~3.11	PETRA 実験に関する会議出席及び研究連絡
情 報 科 学	助 教 授	国 井 利 泰	ア メ リ カ 合 衆 国	2.28~3.15	ソフトウェア科学の研究現状調査
物 理	助 手	永 宮 正 治	ア メ リ カ 合 衆 国	2.10 ~ 11. 1	原子核物理学の研究
物 理	助 手	中 村 健 蔵	ス イ ス	2.27 ~52.2.26	素粒子物理学の実験的研究
地 球	助 手	新 田 勅	ア メ リ カ 合 衆 国	2.29 ~52.3. 2	熱帯気象の研究

理 学 博 士 学 位 授 与 者

専 門 課 程	氏 名	論 文 題 目
物 理 学	伊 藤 浩 子	Nuclear Orientation of Bismuth Isotopes in BiMn (BiMn 中での Bi 同位元素の核偏極)
同	木 下 一 彦	ナノ秒蛍光偏光解消法における基礎的方法の開発と生体系への応用
同	金 久 実	Thermodynamic Analysis of the Conformational Stability of Globular Proteins (球状蛋白質の構造安定性の熱力学的解析)
学 位 規 則 第 3 条 2 項 該 当	殿 塚 勲	$^{212}\text{P}_0$, $^{210}\text{P}_0$ の α -崩壊
同	菊 地 正 幸	Theoretical studies on the focal process of earthquakes: Applications of fracture mechanics (震源過程の理論的研究—破壊力の応用—)
同	羽 田 野 正 隆	地理学で使われる世界地図の投影法に関する研究
同	森 田 茂 之	A topological classification of complex structures on $S^1 \times \Sigma^{2n-1}$ ($S^1 \times \Sigma^{2n-1}$ 上の複素構造の位相的分類) Topology, 14 (1975), 13-22 に発表

編集後記

今月は、記事が多く発行が若干おくれました。執筆者は特に御紹介する迄ありませんが、OB(O Gと申すべきか?)の中村さんは、理学部化学を卒業後、昭和39年に生物化学の大学院を出、現在、三菱化成生命科学研究所の社会生命科学研究室長です。(中村さんのエッセイの標題は編集部でつくりました)。又、森野先生は、財団法人 相模中央化学研究所長として御活躍中です。名誉教授の御近況の中で、藤井先生が、御寄稿の表題についてコメントをのべられておりますが、先生御指摘の通り、御原稿には“雑感”という題がついておりました。只、編集部の判断で、中国人商人の“尊い人”という言葉が大へん印象的でしたので、改題させて頂いたわけで他意はありませんでした。先生及び読者の御了承を得られればと存じます。

又、本号を以て、古生物写真の連載も終わりました。花井先生を中心とする執筆陣の御努力に厚く感謝いたします。尚、裏表紙の写真は、中央事務の久我正弘氏の御協力によるものです。

◇◇◇

早咲きの桜もそろそろ散りはじめる今日此頃、今期編集委員会として最後の号をお届けするのは、いささかの感慨をもよおさざるを得ません。植村先生から新しい形の広報をと、大変鄭重な御依頼を受け、新部長の熱意にほだされてお引受けした当時、まず第一に考えられたことは、“紙屑箱に捨てられない小冊子”ということでした。見本としては、アジア・アフリカ言語文化研究所の「通信」が大へんよくできているので参考とし、表紙の写真欄などもそれにヒントを得ました。ささやかなる体験ですが、米国の大学などで講義をしていたとき配られた学内ニュースや広報のようなものも参考にしました。東大内の各種の類似の刊行物もとりよせてみましたが、当時のものは新方針にあまり参考になりませんでした。福島先生に始まる理学部弘報の持味を失わず、しかも新味を出すのは、大変な仕事でした。

何とか、理学部の皆さんに親しまれるものにした、お互何をやっているかわからないという間隙をなるべく少なくしたい、理学部のいろいろな構成員間の心の交流を少しでもはかりたい……と、最初はいろいろな考え方がありました。広報は一種の学部内ジャーナリズムですが、世間のいわゆるジャーナ

リズムからは、たえず、数歩さがったおちついた姿勢はとりつづけたつもりであります。私自身は、諸専門科学にきわめてくらく、難しい原稿は、正直のところ、内容はわかりませんでした、何れも執筆者に対する100%の信頼の下に編集をすすめました。只私が二号館の一角に所属しており、山上会議所という絶好の取材場所で食事をするのが多く(そのために食事がまずなくなった被害者も少くないときき恐縮の至りですが)無意識のうちに、執筆依頼がそれらの周辺に偏ったのではないかとおそえています。次期編集委員にひきつぎました先生方の顔写真つきの執筆台帳は、どの頁も半分以上埋っており、一人で数編も御執筆頂いた方もあります。又、名誉教授の先生方からは、度々御寄稿、御教授を頂き恐縮いたしております。只、大学院生前後の若い諸君や、事務の方々にももう少し書いて頂きたかったのが果せず、残念に思います。

◇◇◇

編集後記の筆をおくにあたって一言御礼の言葉をのべさせていただきます。

第一に、全く自由な編集を委して下さった植村先生、それに3年の間、出張勝ちで生来散漫な私をよく助け、協力して下さった清水、木下、猪木の共同編集委員の先生方。

第二に、わがままな註文をきき、執筆して下さったすべての執筆者。

第三に、裏方に徹して、貴重な記事をつくって下さった吉野事務長以下学部長室、学部事務、又関係各教室の事務の方々。

そして最後に、誠実な紙面作りをして下さった国際文献印刷社及び林工房の関係者の方々。

以上の方々のお理解と庇護がなければこの広報は今日迄存続しなかったことでしょう。新年度から、木下先生を中心に、新しい編集委員会で広報が続刊されます。広報の一層の発展に夢を託しつつ、これを以て退陣のあいさつに代えさせていただきます。

(小堀 巖)

追伸：今月で私と一緒に編集委員を去る猪木先生は3月末米国へ出張されましたので御自身でごあいさつを書けませんでした、皆さんによろしくとのことでした。